

壱岐島方言の育児語

はじめに

本稿は、文学部国文学科二年生の講義演習「育児語方言の研究」の一環として、昭和五十三年夏に共同調査したものの報告である。

一、調査について

(1) 調査地

調査地壱岐島（長崎県壱岐郡）は、九州北西の海上に浮かぶ小島である。永祿六年（一五六三）から平戸藩領となり、明治までの約三〇〇年間、その統治下にあった。全島平坦な島で、七割は農耕地である。農業と漁業を主生業にしている。

郷の浦・芦辺・勝本・石田の四町に行政区分されており、今回の調査では、勝本町を除く三町の計六地点で調べた。

(2) 被調査者

被調査者の条件は、六十歳以上の土地はえぬきの老女とした。やむをえない場合は、五十五歳以上でもよいこととした。また、できれば一〜二歳ぐらいの孫と共に住んでいるという条件も加えたが、実

際には難しかった。調査にご協力下さったのは、次の方々である。
(敬称略)

友 定 賢 治

中野	光代	六七歳	芦 辺
中野	キクノ	五九歳	芦 辺
稲村	ハナ	五七歳	芦 辺
篠崎	イシ	七七歳	芦 辺
金子	カメ	六二歳	芦 辺
大川	ミサ子	六七歳	石 田
喜多	ソメノ	六五歳	石 田
筒井	クラ	八二歳	石 田
山川	タネ	八五歳	石 田
長山	フジノ	七〇歳	石 田
辻川	フク	七九歳	郷ノ浦
小金丸	マス	七四歳	郷ノ浦
小金丸	トメ	八〇歳	郷ノ浦
山内	サヨ子	五五歳	郷ノ浦
塚元	光代	六三歳	郷ノ浦
今西	嘉子	五六歳	郷ノ浦

(3) 調査日時

昭和五十三年七月二十六日 午前十時～午後四時

昭和五十三年七月二十七日 午前十時～午後四時

(4) 調査者

筆者以外の調査参加者は、文学部国文学科二年生の次の諸君である。

天田暁子、石井貴美、栗原敬子、谷本千鶴江、手嶋貴美代、中

島真由美、福原千里、森和木明美、山佐恭子、矢野ひろみ

この調査は、以上の諸君との共同の所産である。

(5) 調査報告

調査の詳細は、「育児語方言調査の小報告——広島県高田郡吉田町について——」(『文教国文学』第2号 昭和四十九年十一月)とほぼ同じである。ご参照下されたい。

この報告と、早川勝広氏の「育児語方言の調査報告——広島県安佐町鈴張について——」(『広島文教女子大学研究紀要』9号 昭和五十年六月)などを参考^{注1}に、約三〇〇項目を準備した。調査現場では、用意した項目以外のものもでてくるような調査を心がけた。

二、育児語方言語彙一覧

育児語を幼児向けのことばとする立場からは、成人語と同形のものも育児語に含めて考えることができる。しかし、本稿では、育児語を「乳幼児向けの特^{注2}殊教育用の加工語」とし、成人語と同形のもの^{注2}は除いた。

以下のような語を得た。

I、生活環境語彙

天地の部

神

マンマンチャン、マンマンシヤン、ニヨンニヨンシヤン、オカミシヤン

神を拝む詞

「マンマンチャン アッ」 「マンマンシヤン アッ」 「アッ」

仏

仏を拝む詞

マンマンチャン、マンマンシヤン、オイブツツァン 「マンマンチャン アッ」 「マンマンシヤン アッ」 「アッ」

仏壇

マンマンチャン、マンマンシヤン

寺

マンマンチャン、マンマンシヤン、オテラサン

墓

マンマンチャン、マンマンシヤン、オハカ

宮

マンマンチャン、マンマンシヤン、アトサン、アトシヤン

化物

アポヨー、アモヨー、アモジョ、アモーン、ワンワン

鬼

アポヨー、アモーン、ワンワン

恐ろしい

アポヨー、アモヨー、アボン、アモーン、ワンワン

もの

アポヨー、アモーン、ワンワン

恐ろしい

アポヨー、アモーン、ワンワン

日・太陽

アポヨー、アモーン、ワンワン

月

アポヨー、アモーン、ワンワン

星

アポヨー、アモーン、ワンワン

動物の部

雨 バーバ、バーバー
 風 ピューピュー、ブーブー
 雪 コンコン、ユッココンコン
 雷 ゴロゴロ、ゴロゴロサン
 夜・晩 クライクライ、クラクラ
 夕やけ キレイキレイ、アカアカ、マツカ
 砂 ペツペ、ペツペツン、ボンボン、チツチン
 石 ゴロゴロ
 ぬかるみ ボンボン、ベシヤベシヤ、ブーチヤン
 水たまり ブーチヤン
 汚水 ボンボン、ペツペ、ペーチカブーブー
 牛 モー、モーモー、モーモン、モーチャン
 馬 ヒンヒン、オンマ
 豚 ブーブー
 やぎ メーメー、ミーミー
 羊 メー、メーメー
 犬 ワンワン
 猫 ニャーニャー、ニャンニャン
 ねずみ チューチュー、チーチー
 うさぎ ピョンピョン
 きつね コンコン、キャンキャン
 鳥 チュンチュン、チーチー
 鶏 コケコッコ、コッコ、コッコサン

ひよこ ピョピョ、チーチー
 鳩 ポツポ、ハトポツポ
 つばめ チュンチュン、チュツチュ、チーチ、チーチー
 雀 チュンチュン、チュツチュ
 からす カーカー、カッカ、カッコジョッチ
 魚 ジージ、ジージー、タイタイ、エッチン
 金魚 ジージ、ジージー、タイタイ
 めだか ジージ、ジージー、タイタイ、チーサイジージ
 蛙 ゲロゲロ、カーカー
 おたまじゃ ゲー
 くし ガンガン
 蟹 ブイブイ、ブヨブヨ
 虫 チカッ、チカーン、アイタ、アイチャ、アツチャ
 刺す ブイブイ、ブヨブヨ
 蟻 ブイブイ、ブヨブヨ
 かまきり ブイブイ、ブヨブヨ
 みみず ブイブイ、ブヨブヨ
 毛虫 ブイブイ、ブヨブヨ
 蝶 チョーチョ
 蝶 シューシュエ、シューシエー
 蜂 ブンブン、チカン、チカーン、チクチク、パツ、パ
 蟬 ッチ
 蚊 ブイブイ、ブヨブヨ、ブンブン
 のみ ブイブイ、ブヨブヨ、チカーン
 しらみ ブイブイ、ブヨブヨ

植物の部

花 キレイキレイ、キレキレ、ツツツ、ハナハナ

草 クサクサ、クシヤクシヤ

木 キツキ

松ぼっくり ツングリ

2、衣食住語彙

食の部

食べもの ウマ、ママ、マンマ

乳 マンマ、オツパイ、オチチ

かゆ マンマ、オカイ、オカイサン

おもゆ マンマ

米 コンコン

飯 ママ、マンマ

握り飯 マンマ、オニギリ

餅 マンマ、ボツチン、オモチ

餅つき ペツタンペツタン、ベツタンベツタン

めん類 ツルツル、チュルチュル

そば ツルツル、チュルチュル

うどん ツルツル、チュルチュル

そうめん ツルツル、チュルチュル

魚の小骨 アイタ、アイチャ、カツカ

鯛 タイタイ、ジージー

卵 タンタン

菜ッ葉

白菜 ナナ

漬物 コーコ、コーコ

みそ汁 ションション

茶 ブー、オブ、オブー、ブーチャン

湯 ブーチャン

水 ブーチャン、ビービー

酒 ブーチャン、アッポ、アッポー、カツカ

砂糖 アマ、アマアマ

おやつ マンマ

菓子 マンマ

煎餅 マンマ

団子 マンマ

飴 マンマ

ようかん マンマ

みやげ オミヤ、オンヤ

飲む ゴクゴクスル

なめる ナメナメスル

かむ カミカミスル、ニヤンニヤンスル

口を開く アーンスル

吐き出す プースル、エープスル、チュースル

甘い ウマウマ

辛い カラカラ

おいしい ウマウマ

茶碗 チャンチャン

皿

チャンチャン

包丁

アイタ、アイチャ、アイタアイタ

切る

キリキリ

むく

ムキムキ、ムコムコ

焼く

ヤキヤキ、ヤコヤコ

煮る

ニンニ、タコタコ、グチュグチュスル

腐る

ペッペ

かびがはえ

ペッペ

る

割る・分け

ワケワケスル

衣の部

着物

ベベ、オベベ、ベンベン、チンチネネ

晴着

チンチネネ、ヨカベベ

きれい

チュツチュ

綿入れ

ヌクヌク、チャンチャンコ

暖かくする

ヌクヌク、ヌクスル

暖かい

ヌクヌク

熱い

アチチ、アッチ

冷たい

チンカ

ねんねこ

ネンネン、カッポイ、カッコイ、カブシエ

布団

トントン

座布団

トントン

おしめ

オムツ、オシメ、シメシ

帽子

ボツチ

かぶる

カボスル

足袋

タンタン、タンボ、タンビ

靴下

タンタン

手拭

テンテン

リボン

チョチョツケ

靴

クック、チュツチュ

ぞうり

ジョジョ、ジョージョ、ジョージョー、ジョッコ

下駄

ジョージョ、ボクリ、ボックリ、カッコ、カッポリ

こっぼり

ジョージョ、カッコ、カッポリ、ボクリ、ボックリ

傘

バーバ

針

アイタアイタ、チツカ、チカチカ

針が立つ

アイタアイタ、アイチャ、アッチャ

鉄

アイタアイタ、チョキチョキ、チョッキン、チョツ

洗濯

キンチョッキン

洗う

キレイキレイ、ジャブジャブ

きれいにする

キレイキレイスル、キレイキレイスル、アライアライス

汚れもの

ペッペ

きたない

ペッペ、ポンポン

住の部

風呂

オブ、ブーブー、ブーチャン、ブチャ、バチャバチ

石けん	ヤ、チャブチャブ、バタバタ
電燈	キレキレ、ジャブジャブ
燈火	アカアカ、アカカ
燈明	アカアカ、アカカ、マンマンチャン、オヒカリ
光るもの	ピカピカ、キラキラ
火	アカアカ、アカカ、ボンボン
マツチ	アツチ
煙草	アツチ、パツパ
煙	モクモク
火鉢	ヌクヌク、アツチツチ
いろいろ	ヌクヌク、アツチツチ
こたつ	ヌクヌク
炭火	アツチツチ
団扇	パタパタ、バタバタ、シュツカシュツカ
時計	ボンボン、カチカチ、カッチンカッチン
錢	ジエンジエン、シエンシエン
ちり	ペツペ
ほこり	ペツペ
掃除	キレイキレイ、キレイ
はく	キレイキレイ、ハキハキスル
ふく	キレイキレイ、フキフキスル
石段	ダンダン
鎌	アイタ、アイチャ
刃物	アイタ、アイタアイタ、アイチャ

廢棄物

ペツペ、バツチ

3、人間語彙

身体の部

頭	オツム、カンカン
剃髮	ゾリゾリ、ジョリジョリ、カンカンツメル
目	メメ、オメメ
耳	オミミ、ミンミン
鼻	オハナ
頬	ホツペ、ホツペタ、ホータン、フータン
舌	ペロ
手	テテ、オテテ
腹	ボンボン
足	アンヨ、アツシン
ひざ	ヒザボンサン
大便	ウンチ、ウンウン、ボンボン
小便	シー、シーシ、シーシー、シッコ、オシッコ
寢小便	シーシー
睡	ツン
鼻をかむ	チュースル
かゆい	カイカイ
くしゃみ	コンコン
咳	コンコン、ハクシヨン
風邪	コンコン
病氣	アイタ、アイチャ、アイタアイタ、アイチャアイチャ

病気になる アイタナル、アイチャナル、アイタアイタナル、ア

イチャアイチャナル

けが アイタ、アイチャ、イタイタ

痛い イタイタ、イタイイタイ、アイタ、アイチャ

とげ イタイタ、アイタ、アイチャ

やけど

アツスル

血 アイタ、アイチャ

注射 アイタアイタ、アイチャアイチャ

灸 アツツ、アツアツ

薬 オクス、クス

てんかふん パタパタ

化粧する キレキレスル

髪を結う キレキレスル

顔を洗う キレキレスル、アライアライスル

顔をふく キレキレスル、フキフキスル

手足を洗う キレキレスル、アライアライスル

人倫の部

父 トーチャン、オトツチャン、オツチャン、オツタン

母 カーチャン、チャーチャン、カツカン、オツカン

祖父 ジージ、ジーチャン

祖母 ババ、ババン、バーチャン

姉 アンヤン

兄 アンチャン

赤坊 ビッチョ、ガンガ

4、生活一般語彙

がらがら ガラガラ

人形 オボコ

積木 カチカチ

まり テンテン、テマリ

太鼓 トントン、チントントン

笛 ピーピー

鉦 ピーピー

鈴 リンリン、ガラガラ

風鈴 リンリン

風車 ブンブン

鯉のぼり ジージ、タイタイ

船 トントン

汽車 ポツポ、キシヤポツポ

車 ブーブー

三輪車 チンチン

自転車 チンチン

自動車 ブーブー

バス ブーブー

飛行機 ブンブン

ヘリコプタ ブンブン、パタパタ

鉛筆 イロイロ

文字 イロイロ、イーロ

手拍手 チュツチュツチ
 抱く ダッコ、ダッコスル
 背おう オンブスル、カイカイスル、チャイチャイスル
 日なたぼっ スクスク、ヒボコリ
 こ
 肩車 オンマ、チントントン、チンドンカンメ
 水遊び チャブチャブ
 寝る・眠る ネンネ、ネンネン
 昼寝 ネンネ
 添い寝する ネンネスル
 ねころぶ ネンネスル
 横になる ネンネスル
 伸びをする ウーンスル、ノビノビ、ノンダノンダ
 坐る チョイ、チョツチョイ
 正座する チョイスル、チョツチョイスル
 起きる オッキスル
 這う ハイハイ
 立つ タッチ
 歩く アンヨ、アンヨアンヨ、イエニイエンスル
 なでる時 オリコーオリコー、ジョートージョートー、
 の詞 リコモンリコモン、イーコイーコ
 さする ナデナデスル
 くすぐる チョコチョコスル、チョコチョコオトル
 つねる アイタ、アイチャ、メ、メツ、メツスル
 たたく パチンスル、トントンスル

叱る メツスル
 捨てる パイスル、ペツペツスル
 投げる ポイ、ポイスル
 落とす トーン、トーンスル
 隠す ナンナイスル
 しまう ナンナイスル
 おさめる ナンナイスル
 あげる(物) ナンナイスル
 を上へ)
 こける・ころぶ トンスル
 ぶ
 倒れる トンスル
 落ちる トンスル
 ぬれる ジャブジャブスル
 泣く エーンエーン、メーメー
 こわれる パーンスル
 怒る メツ
 嫌う イヤイヤ
 あいさつの部
 下さい アッ
 おちようだ アッ、チョーダイ、オチョーダイ
 い
 おじぎ アッ
 おじぎする アッスル

あいさつ アッスル
 さようなら アッ、バイバイ
 いただきまアッ
 す
 ごちそうさ アッ
 ま
 ありがとう アッ、アングト、オーキニ

三、方言集にみられる沓岐の育児語

次に、沓岐の方言研究家である山口麻太郎氏の『沓岐島方言集』
 『続沓岐島方言集』 『補遺沓岐島方言集』 (いずれも『山口麻太郎
 著作集・方言と諺篇』昭50・佼成出版社 所収) に収集されている
 「小児語」をあげておく。

① 『沓岐島方言集』

本方言集は、大正十四年の初めから昭和三年の末までに調査した
 ものである。今回の我々の調査から約半世紀前ということになる。
 我々が集めることのできなかつた語に○印をつけてみた。
 なお、ここに言う「小児語」は、本稿の「育児語」と同義ではな
 い。

アカカ 灯火
 ○アカチヨコペー、あかんべえ
 ○アッブー 遊ぶ
 ○アッポ 酒
 アトサン 神・仏・月・日・星・種痘

○アベシカ あぶない
 ○アンボン・アンボンタン 馬鹿・阿呆
 アモジョー、アモヨー おぼけ・妖怪
 ○イッペ 接吻
 ○イトシカ 小さい
 ウーシカ 大便
 ○ウツネネ、ウツツ 美しい着物
 ○ウツカ、ウツシカ 美しい
 ○ツツツ、チンチ 美しい
 オツカン 母
 オツタン 父
 ○オトト 父
 カイカイ おんぶ
 ○カゴミカゴミ、カゴミボシ かくれん坊
 ○カッシャ 頭髮・頭
 ガンガ 赤坊
 ○カエカエ (kayekaye) 取りかえっこ
 ○キー 来なさい
 ○ケンケン 片足跳び
 ○コゾコゾ 頭髮を剃る事

- コッカ 腰を掛ける
- コンコ 米
- シー、シーシー 尿
- ジージー 焼き魚
- ジョージョー、ジョッコ ぞうり
- セーセー 蟬
- ゼンゼン 銭
- ターン 落ちる
- タンタン 卵
- ジコサン、ヂコサン、リコサン りこうな子
- チッコ 舟
- チン 犬
- チンチ 美衣
- チョージャドン 七星てんとうむし
- チヨイ 座する
- テンテン 手拭
- トトシヤン お父さん
- トンギン、トンギンギン 頂
- ニヤンニヤン かむ
- ニヤオン 猫
- ニョーニョー 神仏を拜む
- ネネ 着物
- パツパ 煙草、きせる

- ハンベ 裸、腹這
 - ビービー 水
 - ピッチョ 嬰兒
 - ピンピン 絃楽器
 - ブイブイ 虫
 - ペツペ、ベベカ、ベベタカ きたない
 - ホージョ 蛸
 - ポツチン もち
 - ポツポジョ 女陰
 - ボンボン 火
 - マンマ 食物
 - メーメー 貝
 - モー 牛
 - イエイヤカッポ 舟
 - イエイエー、イエツチン 魚
 - イエニコ、イエナイエン 歩く
- ②『続巻岐島方言集』
- これは、昭和五年八月から昭和十一年七月が調査期間である。
- ウダウダ 抱く
 - オクワシン 菓子
 - カブリカブリ いやいや
 - カリカリ 寒餅

コネコネ

こねる

○ジカヨ

刺すまねをしておどす

○スカンスカン

きらいきらい

ゾルゾル、ゾロゾロ

そうめん

○チヨ

猫

○トーライ

鬼ごっこ

○トクワントクワン

葬式

○バーバー、バイバイ

雨

○イエーイエー

鬼事遊び

⑧『補遺彦岐島方言集』

これは、昭和十一年以後四十七年までの調査である。

○ガンボシ

叱られた時「ガラレタ ガンボシ」という

以上が山口氏の収集されたものである。在住の研究者にして可能な、地道で緻密なお仕事であると考えられる。収集された78項目95語のうち、我々が集められなかったのは、43項目53語である。勿論、本稿で育児語とする範囲から外れるものを含めてであるので、正確な比較はできないが、数字の上では、山口氏の収集されたもののおうち約55%に相当する語は、我々の調査では聞かれなかった。

四、育児語の言語地理学的研究

育児語研究の一方法として、分布を整理するということが考えられよう。それによって、育児語の発生、語史、語の解釈、語源などを探るのである。^{注4}

本稿でも、そのような観点から、不十分な資料によってではあるが、分布の概略を整理検討してみたい。

(1)「魚」の育児語一覧

ここでは、「魚」の育児語をみていくことにする。まず分布の一覧を示す。^{注5}

○トト系

トト 新瀉県三条市、栃木県佐野市・同栃木市・同

トト 小山市・同日光市・同安蘇郡・同上都賀郡・

トト 同下都賀郡・同河内郡、東京都各地、静岡県

トト 各地、長野県東筑摩郡・同長野市・同水内郡

トト ・滋賀県各地、三重県上野市、大阪府各地、

トト 鳥取県西伯郡、岡山県各地、広島県因島市・

トト 同甲奴郡・同沼隈郡、島根島石見地方

トト 山形県米沢市

トト 山形県米沢市

トト 静岡県各地

トト 静岡県富士郡・同静岡市・同安倍郡

トト 静岡県静岡市

トト 大阪府

トト 大阪府、徳島県海部郡

オトト 福島県岩瀬郡、新潟県岩船郡、福井県勝山市、静岡県各地

オト 静岡県田方郡

○ジジ系

ジジ 島根県邑智郡、愛媛県南宇和郡、長崎県対馬地方、熊本県天草郡

ジーンジ 岡山県笠岡市、愛媛県南宇和郡、長崎県

ジコ 愛媛県南宇和郡

ジコ 愛媛県松山市

ジコ 愛媛県松山市

ジーン 岡山県笠岡市、長崎県

○ビビ系

ビビ 島根県邑智郡・同美都町・同益田市・同隠岐地方

ベベ 島根県邑智郡

ブブ 島根県石見地方

ビビ 島根県石見地方

ビビ 島根県益田市・同大原郡・同隠岐地方・広島県・山口県

ビ 島根県邑智郡・同石見地方・同美都郡・同隠岐地方・同益田市・山口県・香川県上笠居、愛媛県、高知県

ビンビ 徳島県美馬郡、高知県各地

オビ 香川県水田郡

オービ 香川県上笠居

○チチ系

チチ 栃木県宇都宮市・同足利市・同日光市・同大田原市・同河内郡・同芳賀郡・同塩谷郡、長野県下伊那郡

チーチー 栃木県日光市・同河内郡・同塩谷郡・同那須郡、静岡县磐田郡・同周智郡

チンチ 静岡县周智郡

○タイタイ系

タイタイ 島根県西伯郡、島根県各地、広島県各地、山口県柳井市・同防府市・高知県長浜郡・大分県北海部郡・長崎県志岐

タイトト 大阪府

○ヨヨ系

ヨヨ 長崎県五島地方

オヨ 静岡县賀茂郡

ヨヨ 静岡县賀茂郡

イエーイエー 長崎县志岐

イエツチン 長崎县志岐

エポ 島根县隠岐地方

エツポ 島根县隠岐地方

ポ 島根县隠岐地方

ポ 島根县隠岐地方

ポ 長崎县島原地方

ポ

ポ

ポ

ボーボ	石川県羽咋郡
ボツボ	長崎県五島地方
ベベ	佐賀県伊万里市・同武雄市・同鳥栖市
メメ	熊本県球磨郡、鹿児島県
ボツボ	長崎県五島地方
ボージョ	長崎県島原地方
フジョ	鹿児島県
ボト	熊本県
ボヤ	新潟県岩船郡、山形県西田郡
○ガンガ系	
ガンガ	山形県村山郡
ガガ	青森県五戸郡・山口県長府郡
ゴゴ	岩手県
ゴッコ	岩手県盛岡市
ギーギー	福島県岩瀬郡・同会津市
ザザ	山形県米沢市
ゼゼ	新潟県佐渡
ガッカ	青森県五戸郡
アカ	福島県南地方
アガ	山形県、宮城県
○不詳事象	
ヤヤ	石川県鳳至郡
ヤッヤ	石川県鳳至郡

以上、「魚」の育児語の諸事象を系列化して分布一覧を作った。

あくまでも中間段階のものである。これだけで分布等について論じるのは無理であろうが、考えられることを述べてみたい。

分布の概略は次のとおりである。

- ① トト系——東北南部・関東・中部・近畿・中国地方
- ② ジジ系——中国・四国・九州地方
- ③ ビビ系——中国・四国地方
- ④ タイタイ系——中国地方西部・高知・大分・長崎・大阪府にも
- ⑤ チチ系——関東・中部地方
- ⑥ ヨー系——東北・中部・九州・島根県にも
- ⑦ ガンガ系——東北地方・山口にも
- ⑧ ①のトト系の語が東北南部から中国地方までの広い地域に分布している。このトト系に接して、西部方言系のものに②ジジ系、③ビビ系、④タイタイ系があり、東部方言系のものに⑦ガンガ系がある。そして、⑤のチチ系が関東・中部地方に分布する。⑥ヨー系は、東北・中部・九州・島根県と、いわゆる辺境地方を中心に分布する。

なお、中国五県の「魚の幼児語」の分布については、広戸惇先生の『中国五県言語地図』（昭40 風間書房）に詳細な分布図がある。参照されたい。

(2) 分布に基づく事象解釈と語源について

調査そのものが不十分であるので、分布からの事象解釈も限定されるが、考えるところを述べてみる。

△aVトト系

さまざまな派生形とともに、東北南部から中国地方までの広い地域に分布している。この「トト系」を中心にして、いわゆる周圍論

的な分布をみせるのが、「魚」の育児語の分布傾向であると言え
る。

また、この「トト」は、魚以外にも、「鳥・鳩・犬・猫」などの
育児語として用いる地方もある。

語源についてもさまざまに指摘されている。『大日本国語辞典』

(小学館)にそれらが整理されているので引用させていただく。

(a)もと體語であるのが伝わったものか。(幽遠隨筆、名古屋、大
言海)

(b)早く下さいという催促の言葉トウトウ(野草雜誌、総合日本民俗
語彙)

(c)南朝人が食を頭、魚を斗と呼んだところからか。(文明本節用
集)

(d)魚をヒトヒトと数えたところから(大言海)

△bVジジ系・ビビ系

トト系の語の外側に分布するもので、西日本方言系と言えるのが
ジジ系とビビ系である。このうち、ジジ系が中国・四国・九州地方
に、ビビ系は中国・四国地方に主として分布している。

これらについても語源の解釈はなされている。柳田国男は、『分
類児童語彙』(昭24 東京堂)の中で、ビビ系については、

島根県の石見方面では、魚の幼な言葉がビビ又はブブ、どうし
てそう謂ふのがまだはっきりせぬが、或は焼くことをアブル

もしくはイビルといふのから出たのかも知れぬ。是と似た例は
愛媛県の東部でビイ、香川県の中部で魚をオビ、鹿児島県の一

部にはブジョ、長崎県の上五島にはボッポといふなどがある。
と言う。さらに、ジジ系については、同書の中で、

九州はほぼ一円、四国も西に面した側は多く是が有る他に、更
に遠く隔たつて佐渡の島の処々にもゼゼが有る。魚を火に炒っ
て焼ける音から出たかと、土地の人が解説するのは多分当って
居る。

と言っている。ビビ・ジジのいずれも魚を焼くということに出自を
求めている。

また、山中讓太氏の『方言俗語語源辞典』(一九七〇・校倉書
房)では、島根県石見地方で、海の魚をタイタイといい、川の魚を
ビービーという事を手がかりにして、

ビービーは、魚を数える接尾語のビ(尾)ではなくて、海と
川、大と小との比較対照から見、エビエビ(蝦蝦)の転音で
あろう。

とある。この山中氏の解釈では、タイタイ(鯛鯛)との対照が重視
されているが、タイタイとビービーとを区別して用いたとする島根
県石見地方で発生したものが各地に伝播していったのでない限り、
△エビエビVを語源とすることには、なお疑義が残るのではない
か。

柳田国男の解釈では、とくに、△イビルVの「ル」が脱落して、
「イビ」を反復したとすれば、

イビイビVビービー
で、自然な音変化と考えてよいと思われる。

また、ジジ系について、巻岐島での山口麻太郎氏の調査に、
ジジ 焼き魚のこと

となっている。柳田国男の考えを裏付ける報告と言えよう。さら
に、このジジ系とビビ系の分布地域は重なっている点に注目すべ

ば、ビビ系の出自がハイビルVとする考えも認められるのではあるまいか。

異形態もさまざまであるが、香川県の「オビ・オービ」は、「オトト」と同様に接頭辞「オ」のついたものであろう。また、石見地方の「ベベ・ブブ」も音転化形であろう。

ただし、柳田国男が「ビビ・ジジ」系とするブジヨ、ポッポ、さらにはゼゼについては、筆者はそうは考えない。ブジヨ、ポッポは「ヨ」系とし、ゼゼは「ガンガ」系とした。(後述)

△cVタイタイ系

これもトト系の外側にあり、中国西部を中心に、四国・九州にも分布している。

この語源についても、前出の山中氏の『方言俗語語源辞典』では、

魚のことをタイタイと呼ぶのは、岡山、島根、鳥取、大分であるが、その語源は、タヒタヒ(鯛鯛)であろう。△中略V鯛で海魚を代表させた呼び方がタイタイであることは、ほぼ確実にあろう。

と述べられている。大阪府にあるタイトトというのは、その語源をうかがわせると思われる。

また、柳田国男は、やはり『分類児童語彙』の中で、

タイタイは多分頂戴といふ語の加工で、是もやはり魚のこと、幼児は解するやうになって居るらしい。

と言っている。

△dVチチ系

これは、中部、関東に分布している。栃木・長野・静岡などで、

関東(東京)を中心とした周辺地域と言えよう。以前は、もう少し広く関東一円に分布していたと考えられようか。新語形トト系の勢力拡大で、周辺地域に押しやられたものと思われる。柳田国男が、江戸では以前チイチイといふ語を虫だけで無く、魚にも鳥にも用るさせて居たと、於路加於比下巻には述べて居るが、(略)と『分類児童語彙』に記しているのは、その事を伺わせる。ただし、柳田は、この語の語源は、ジジ系と同じく、やはり焼けるのを見まもる児の付けた名だったかも知れぬ。と解釈している。

柳田の言うように、ジジ系の語とするのも自然な音転化であり納得でき、ジジ系の分布する中国・四国・九州と、チチ系の中部・関東とが、関西を中心とした周圍論的分布であることも言える。

ところで、「チンチ」という語形について、柳田国男は、『総合日本民俗語彙』の中で、

(宮崎県)喜多郡では好い着物のことをチンチベベという言葉があるから、チンチとは嬉しい感情を表現する音だったと思う。と述べている。彦岐でも「晴着」のことを「チンチネネ」と言う。

隠岐にも「美しい」の育児語に「チー」というのがある。さらに、徳島・高知などでは、「お金」の育児語に「チンチ」がある。大事な物・美しい物を意味する「チンチ」という語の分布は、かなり広いものではなかったろうか。また、「チンチ」は「小さい」という育児語として広い分布を示している。この「チンチ」に注目する必要があるはずまいか。食物としての魚の大切さ、食物そのものを大切にするというしつけ、小さな美しい生物である魚、というように考えてもそう不自然ではないと思う。ジジ系であるか別の語源のもの

のであるが、より詳しい分布が分らないといずれとも決めがたい。
△eVヨ一系

これは、トト系を囲むように、九州・山陰・北陸・中部・東北に分布している。さらに広い分布地域があったことをうかがわせる。

語源は、「イオ・ウオ」^{注6}を考えたい。関連事象を整理すると次のようになろうか。

イオ↓イヨ↓ヨヨ↓ヨヨ↓イエーイエー
イオ↓イホ↓イボ↓ポー↓ポー↓ベベー↓メメ
イボ↓ボ

イオ↓イヨ↓ヨヨ↓ヨヨ↓イエーイエー

全部をあげたのではないが、残りのものも系列化される。

ここにあるものうち、柳田国男は、熊本・鹿児島に分布する「メメ」について次のように『分類児童語彙』に記している。この「メメ」は、各地で種々の意味で使われていると言った後、

ともかくも幼児はその好むものに、この語音を付与しようとする傾きをもって居たので（略）
と言っている。

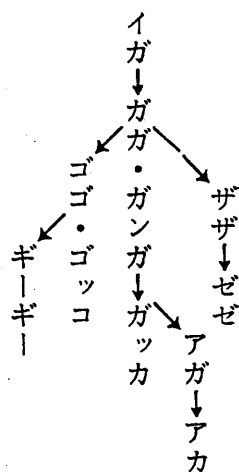
△fVガンガ系

これは、東北地方に分布している。また山口にも見える。この語についても柳田国男は、『総合日本民俗語彙』の中で、

魚の骨、おそらくはイガという語がもっと広く用いられていたからと思う。

と言っている。食物としての魚の特徴は、骨があることである。それをとらえて育児語化するというのは納得できるところ。

東北地方に分布する諸事象を整理すれば次のようになろうか。



これらのうち、柳田国男は、「ゴゴ・ゴッコ」について、やはり『総合日本民俗語彙』の中で、

ゴゴまたはゴッコというのは岩手県で魚のこと。子供がゴッコといわぬうちに魚を食べさせるとゴゴゴ（吃り）になるという迷信が、盛岡付近にある。

と言っている。

△gVヤヤ・ヤッヤ

不詳事象としたが柳田国男は、

能登鳳至郡で魚をさういふ。是も催促の言葉であらう。

と解釈を示している。（『分類児童語彙』）分布が不明のために何とも言えないのであるが、やはり柳田が同書で、

愛知県の東春日井郡などでは、ハヨといふのが食物としての魚の幼語であった。ハヨは早く与えよの意味であって（略）
と言っているので、

ハヨVハヤVヤヤ・ヤッヤ

ということが考えられそうにも思う。中部地方のさらに詳しい分布を調査しないと確かに言い難い。

以上、まことに不十分な調査ではあるが、分布をもとに語源・諸

事象の解釈を考えてきた。勝手な推測ばかりを並べたが、語源考証において、いかに分布の精密さが要求されるかを痛感する。とりもなおさず調査の充実である。

注1 その他にも、

旗手直美、半田美佐枝「育児語方言調査報告―広島県尾道市百島町について―」(『文教国文学』第五号 昭51・11) 伊田香・俵屋聖子・千原明子「隠岐島五箇村の子守唄と育児語」(『文教国文学』第四号 昭51・3) などがある。

注2 早川勝広「育児語方言の調査報告―広島県安佐町鈴張について―」(『広島文教女子大学研究紀要』9号 昭50・6)

注3 カードには、アクセントのついたものもある。確実と思われるものは表記しようかとも考えたがなお不安が残るので、今回は、惜しくはあるがやめることとした。

注4 これまでも、幼児語(育児語)の方言分布について考察したものは、

鏡味明克「幼児語の方言分布の考察」(1)~(5) (『順正短期大学研究紀要』1号~5号、昭46~昭51)

早川勝広「育児語研究の諸問題(中)」(『文教国文学』第四号 昭51・3) などがある。なお、鏡味氏は、この中で、魚の幼児語の諸語形間の関係を整理しておられる。また、広戸惇先生の『中国地方五県言語地図』には「餅」(Fig. 214)と「魚」(Fig. 13)の詳細な分布図がある。

注5 引用した文献名は繁雑になるので省略する。

注6 ウオとイオの新旧関係の認定は難しい。

例えば、『和名抄』には、

魚 宇乎俗名伊乎
水中連行虫之惣名也

とある。同時に行われていたのであろう。

注7 「イオ」は「iwow」である。したがって、

iwo→iFo→ibo
↓
ipo

である。

〔付記〕炎天下、積極的に調査に従事した学生諸君と共に、我々をあたたく受け入れて下さった彦岐の方々に記して厚くお礼申しあげる。
(本学国文学科講師)